

令和5年度 第3回学校運営協議会
(兼 高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業地域連携組織)
議 事 録

日時 令和6年2月27日(火) 13:30～16:00

場所 岡山県立勝間田高等学校 記念館3階会議室

(委員15名のうち11名が出席)

1 開会行事

- (1) 校長挨拶
- (2) 会長挨拶
- (3) 事務局より

2 令和5年度 学校運営に関する評価

(1) 教育活動報告

- 生徒募集状況
- 令和5年度学校運営協議会意見申出書の説明
- 「高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業」について
- 進路状況

(2) 資料説明

- 学校評価書
- 学校自己評価アンケート
- 主な事業と予算(執行状況)

(3) 質疑応答

【委員A】

学校評価書の「2 生活習慣の確立」において、指導票指導件数が前年より増えているとのことで、前々年度の資料を見ても年々増えていることがわかった。どのようなケースが多いのか。

【事務局】

指導票指導は生活上の軽微なルール違反に対しての指導になる。最も多いのは休み時間のスマートフォンの使用で、大半を占めている。生徒の中にはルールを認識しておらず、指導されるケースもある。だから1、2年生が多く、学年が上がるにつれて少なくなる傾向がある。

【委員B】

学校評価書の「2 生活習慣の確立」において、いじめと認知した件数が4件あり、いじめ対策委員会を開催したとあるが、どのような取り組みをしているのか。

【事務局】

いじめ対策委員会は、校長・教頭・生徒課長・補導主任・養護教諭・教育相談室長・学年主任・担任など様々な教員で構成されている。いじめはあってはならないが、いじめを認知したらその都度開催して情報を共有し、専門機関とも連携を取りながら、双方の生徒がうまく学校生活を送っていけるような取り組みを行っている。

【議長】

いじめと認知した件数が4件とのことだが、1人の生徒に対して4件いじめがあったのか、被対象者が4人いて別々のいじめが4件あったのか教えていただきたい。

【事務局】

すべて別の生徒に対しての件数である。1対1のケースもあるし1人の生徒に対して複数が行っていたケースもある。

【委員B】

いじめは目に見えないところで起きることがある。大人の世界でもある。目を光らせて起きないようにしていただきたい。

【委員C】

不登校の生徒なども入学していると思うが、そういった生徒たちが留年したり転退学したりしていく件数はどのくらいあるのか。

【事務局】

現時点で転退学した生徒は10数名いる。年度末に進級認定会議の結果を受けて転退学や留年する生徒も出てくると考えられる。そのことから20名程度の生徒が進級せず転退学になると考えられる。

進路変更した生徒の中には、入学式の式場に入ることができず、そのまま1学期で進路変更した生徒や、学力が低く学習意欲も続かず進路変更する生徒もいる。学校は落ち着いてきているが、学習面での意欲が低い生徒は多くいる。2学期末で成績不振の生徒には話をしてはいるが、改善が見られず進級できないケースが考えられる。

【委員C】

転退学する生徒をいかに少なくすることが学校の評価にもつながる。入学してきた生徒が「入ってよかった」と思える学校であるよう、引き続きお願いしたい。

【委員A】

学校評価書の「1 学力向上」で、学習時間調査で学習しない生徒が43.0%と多い。自己評価アンケートでは、「予習・復習・課題等、家庭学習習慣ができている。」との問いに、生徒は38.8%だが、教職員は19.1%と差がある。何か対策をしているのか。

【事務局】

学習時間調査をしても今年度は低迷していて、目標を達成できなかった。学校評価書にも記載しているが、基礎力診断テストの調査で、普段の学習について、「学校で出された宿題は、できるだけやるようにしている」と回答した生徒が47.5%だったことから、生徒は「宿題はちゃんとしている。」と認識しているようだ。このことから自己評価アンケートでは、(教職員より)生徒の数値が高くなっていると考えられる。本校の生徒は、課された課題はするが、自分で学習する方法を知らないということも考えられる。国語・数学・英語の3教科を中心に週末課題を課すなどをするところから始め、学習する習慣を付けさせることが必要であろう。来年度は様々な調査結果を分析し、学習する習慣を付けさせる手立てを検討していく必要性を感じている。

【委員D】

3教科以外や各系列で課題を出すことはあるのか。自己評価アンケートの結果を見ると、系列の学習には生徒は意欲的に取り組んでいるので、(家庭学習も)できるのではないか。

【事務局】

5月の連休中や長期休業中、2月の入試期間中には、各教科全体に課題を出して欲しいと依頼している。系列によっては課題を設定するのが難しいところもあり、普通教科中心となっている。生徒が興味を持って取り組めるような試みも考えていく必要もあるかとも思う。

【議長】

生徒や保護者にはこのアンケート結果を知らせているのか。

【事務局】

まだアンケートを集計したばかりなので生徒や保護者には知らせていないが、今後知らせるつもりである。

【議長】

アンケート結果だけでなく、課題や今後に向けてのことなどを加えて、生徒や保護者へ伝えていくのがよいのではないか。

【事務局】

ただ数値だけを伝えてもわかりづらいので、意見を参考にして検討していきたい。

生徒が家庭学習をできない理由としてもう1つ考えられるのが、アルバイトをしている生徒が多いことである。周辺高校では許可をしていないが本校ではアルバイトを認めている。全校で100名ほどの生徒がアルバイトの申請をしている。実際にはもう少し多いかもしれない。アルバイトと家庭学習との両立が難しいことも考えられる。

【委員C】

学校自己評価書の「4 情報発信・広報」は、厚生課の項目はA評価だが、教務課・農場の項目はB評価となっている。達成状況から見ると、A評価でよいのではないか。自己評価ということで、厳しい評価になっているように感じる。

(4) 学校評価

●学校自己評価書について

- 1 学力向上 …自己評価と同様の評価 B で賛成
- 2 生活習慣の確立 …自己評価と同様の評価 B で賛成
- 3 進路実現 …自己評価と同様の評価 B で賛成
- 4 情報発信・広報 …自己評価はBだが、評価 A で賛成

●次年度に向けて

【委員A】

評価の仕方について、勝間田小学校の学校運営委員会では、委員全員へ評価書が配られ、それぞれが評価をし、それを集計して評価をする。コメントも求められる。評価をこの場ですと時間が限られているので、ひょっとしたら意見を述べられない方もいらっしゃるのでは。それぞれのコメントを集約すると、より個々の意見も生かされるのでは。

【議長】

事務局も時間的な制約があると思うが、次年度に向けて検討をしていただければ、より個々の意見も反映されるのでは。

【事務局】

検討していきたい。

【委員A】

この場でコメントを集約して発表しなくても、会の後でも集約していただければ。専門

分野に着目した意見もあると思うので、学校運営に生かされるのではないかと思います。

【議長】

さまざまな意見をいただいた。今後に生かしてほしい。

3 令和6年度学校運営基本方針協議

(1) 令和6年度学校経営計画書(案)

①説明

②質疑応答

【委員E】

内部環境の弱みとして「自己肯定感が低い生徒が多い」とあるが、令和6年度に向けて何か取組は考えているのか。

【校長】

勝央文化ホールで行った「課題研究・総合的な探究の時間発表会」のように発表の場を多く与えていくということ、また学校外で交流の場を設けるということである。本校に入学してくる生徒の中で、生徒会などで活躍した生徒はほとんどいない。学校外で自発的に交流していくことで力がつく。コロナが落ち着いて、そういった機会を多く持つようにしている。

【議長】

弱みを強みに変えていくようにお願いしたい。

③承認または修正

承認

(2) 令和6年度主要事業予算

①説明

②質疑応答

【議長】

勝央町として、PR活動の予算がないのではと考え、140万円あまりの予算を検討している。県と重なるが予算は残していきたいと考えている。駅前のPR看板の更新予算も計上しているので、活用していただきたい。

来年度の植樹祭に向けて、どのような関わりや取組をしているのか。

【事務局】

3年前から岡山県の林政課より要望があり、会場装飾のベンチなどを製作し、今年度末に納品する。本会場やサブ会場の飾り花を、県下8校の農業高校で数百プランターを準備する。また、当日は大臣などの植樹サポートを本校の生徒が担う。リハーサルを重ねている最中である。

③承認または修正

承認

(3) 令和7年度教育課程について

①説明

②質疑応答

質問なし

③承認または修正

承認

【議長】

変更があれば、令和6年度第1回学校運営協議会で再度審議していく。

4 高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業について

事務局より概要説明

質問なし

【議長】

生徒の発表をもっと町民や一般の人に知ってもらうようなことはできないか。

【事務局】

（発表会について）報道機関や町民にも情報は流したが、時期的にも情報を流したのが遅かったこともあり、今年度は参加が少なかった。来年度はもっと広く、早い段階で情報を流していきたい。

また、都合が合えば、勝央中学校の2年生を招待して聞いてもらってもよいと考えている。

【議長】

自分の言葉で発表するということは、生徒にとって自信につながる。こういった機会を利用して、生徒が経験できるようにしていただきたい。

5 情報交換等

【委員E】

子どもは少し不登校気味だったが先生方の指導のおかげで無事卒業を迎えることができた。手厚く指導をしていただいた。2年前のこの会で進路変更する生徒を減らして欲しいとお願いしたが、努めていただき減少をしてきた。

私立高校は追試や補習を行って進級や卒業をさせるだろうが、県立は難しい。県のほうもなんとか考えて欲しいと思う。

【委員F】

勝央町と学校の距離が近くなり、お互い力を合わせていて成果が生まれている。ありがたいし感激している。地域の中の学校として、地域から求められること、地域のために高校ができることがあるのは、町長や町民のご理解のおかげである。

高校に求めることは、5つのコースの進路状況がそれぞれ専門の分野にどれだけ進んでいるのかを1つの指標として調べてほしい。

【委員D】

勝央町の地域おこし協力隊として6年前に帰ってきた。今は勝間田高校の地域協働活動コーディネーターという立場で、勝央町のよさを実感し、勝央町もよくなっていると感じる。

勝央町と学校と関わり、視野が広がった。自分のスキルを生かし、よりよくしていきたい。

【委員A】

三者協定を基にしてリブランディング会議を毎月開催している。それぞれのノウハウを生かして、高校生のためにできることはどんなことがあるかを考えている。

生徒の自己肯定感を高めることは大切である。教員からの一言やいろいろな人からの言葉は高校生にとって大事だと思う。変容を伝えていけたらと思う。

岡山県が同窓会に助成金を出す事業を始めるという話が出ている。勝央町は先駆けて補助金を出す取り組みをしている。私自身、同窓会をやって、地元に残っている人が多いことを知り、頑張っていこうかと思えた経験がある。勝間田高校の卒業生も大きくなって同窓会をして、学生時代に一緒に学んだ仲間と地域のために頑張っていく、そんなサイクルができればいいと思う。地域のために頑張っている姿を見せられる大人でありたいとも思う。

【委員G】

学校運営協議会に参加し、勝間田高校の良さを知ることができた。

コースが5つあることは魅力である。ここで勉強したら世の中のためになる職に就ける、ということを伝えていければよいのでは。また、楽しんで勉強できる生徒が増えればよい。アイデアがあれば提供していきたい。

【委員E】

勝間田高校の生徒とふれ合いたいと思い、勝間田駅に出向いて話をすることがある。「県南に出て働きたい。」などと具体的に話をしてくれる。素朴で駅にいる様子も落ち着いている。

地元の評議委員もしている。（地元に住む者として）「安全・安心に過ごす」ために、取り巻く環境について生徒にも情報を伝えたい。

【委員B】

農協は直接的にはアグリ魅力化プロジェクトとのつながりがある。

学校経営計画書の学校内外の環境分析で、内部環境の弱みとして「自己肯定感が低い生徒が多い。」とあったが、アグリ魅力化プロジェクトで活動している生徒は積極的で、小学生に話しかけたり教えたりしている。「合同課題研究発表会・総合的な探究の時間成果発表会」も見させてもらったが、発表している生徒はハキハキ発表している。将来に役立つと思うので、こういった経験をこれからも生徒にさせて欲しい。

令和6年度も協力・貢献していきたいと考えている。

【委員H】

農業者のつといでは、勝間田高校園芸系列の生徒がよい発表をしてくれた。

勝英地域は、アスパラと黒大豆の生産が県下一である。勝央町のブドウのハウス栽培も高い評価を受けている。勝間田高校と協力し、PR活動ができたと思う。

【委員C】

勝央町教育委員会でも自己肯定感をあげる目的で活動をしている。（最近の子どもたちは）自分がやったことが認められるとか、「ありがとう」という言葉を受ける機会が少ない。

中学校まで不登校の生徒が（勝間田高校で学ぶことで）救われている。勝間田高校でさまざまな経験をし、発表などをし、表彰もされるなどして、生徒たちは自信を持って社会に出ている。感謝している。「勝間田高校に入れてよかった」と言える学校であってほしい。

子どもが夢を持つ講演を、小学校で行ってもらった。視点を変えると農業にも魅力があることを気づくのでは。

アグリ魅力化プロジェクトでは子どもも高校生も笑顔で過ごしている。清風祭文化の部に行ったが、あいさつをするとあいさつを返してくれる。こういったことが信頼につながる。「子どもを行かせたい高校」になっていくと思う。

【議長】

貴重な意見を多くいただいた。感謝したい。

7 閉会行事

(1) 校長より

(2) 事務局より

①来年度の学校運営協議会について

委員の任期は1年だが、再任は妨げないため、3月に打診

②その他